

2018年度コラボミュージアム作品づくりコンテスト

小学校・中学校部門 アピールシート

平成 31 年 1 月 23日

所属名 : 東京都 渋谷区立 代々木山谷小学校

実践学年組: 6年 1組

氏名: 細川 卓郎

教科	国語
実践期間	2018年 4月 16日 ~ 2019年 1月 23日
実践タイトル (35文字以内) いつでもどこでもみんなで更新、みんなが発信！デジタル学級通信！	
実践の目的 印刷機を一切使わずに、学級ルールから係活動、明日の持ち物までをデジタル上で共有し、SNSのように学級運営を支援する。	
実践のポイント・工夫 東京都渋谷区は2017年度から、区立小中学校の全児童生徒と教職員に各1台のタブレット端末を貸し出し、授業や家庭学習に活用している。タブレットを通して児童がいつでもどこでも学級の様子を確認できるように、デジタル空間上に学級通信を作成した。これまでは教室の壁に掲示していた係活動のカードや係からの連絡、担任からの連絡内容もすべてコラボノートに集約することで、児童との共通理解すべき事項が整理され、より円滑に学級経営することができることが狙いである。	
実践内容 (簡単に) コラボノートには、学級経営上で必要と思われるものを学級会で相談し、一つ一つを増設していった。学級のルールは、学習面や生活面、給食や休み時間の過ごし方など、学校で決めたルールをもとにさらに細分化して具体的に定めていった。月に1回の学級会ではルールの見直しを図り、よりみんなで守っていくことのできる学級ルールへと昇華させていった。係活動では、月曜から金曜までの当番表(シフト表)を作ったり、係からの連絡欄を作ったりするなど、各係で児童が自由にレイアウトを工夫し、活動を助けられるシートになるよう努めた。家庭学習を補助するために、算数の発展問題や調べ学習のリンク集なども児童の要望に応じて作成し、内容を充実させていった。	

(コラボノート)を使用してよかった点を教えてください。

忘れ物対策係が持ち物を記載することで、連絡帳以外にも確かめる手段ができ、保護者にも周知されていたため、児童の忘れ物が少なくなった。また、病気や入院などで長期欠席した児童でも学級の様子が見えるため、付箋やコメントで遠隔地からでも参加できるようになり、児童の結束が深まった。まるで1つの町のように、コラボノート内で児童一人ひとりが自主的に学級を維持していく手段や方法を考えられるようになった。

実践記録の概要（単元略案）

※コラボノートを活用した場面だけではなく、全体の学習の流れとコラボノートをどの場面でどのように活用したか記載してください。

全6時間（その他、必要に応じて学活の時間に学級会を開いた）

時数	学習活動	先生の指導・支援 および評価	コラボノートの活用
1	・デジタル学級通信について知る。 ・どんなページがあると便利か話し合う。	・前年度の4年生がコラボノートで実践していた係活動のページを見せ、イメージを持たせる。 ・話し合いを通して意見を集約させ、6年1組に必要なページについて整理し、更新する人の役割分担をする。	・決まった意見から早速ページを作成していく。
2	・学級のルールについて話し合う。	・生活面、学習面、休み時間など、ルールが必要な場面を想定し、グループに分かれて学級ルールを作成する。 ・「よよさんよい子の学校生活」(校則)から外れないようにすることを確認する。	・生活、学習、休み時間、給食など、決まった意見からページを作成し、記録者を分配していく。
3	・学級の係を決める。(前期)	・あったほうが良い係を出し合い、担当を決める。	・係ごとにページを作る。 ・基本のレイアウトを示したページを例示する。
4	・学級のルールを見直す。(前期)	・1か月を経て、守ることが難しいルールやあまり意味のないルールはなかったか話し合い、内容を更新する。	・ページのロックを解除する。
5	・学級の係を決める。(後期)	・前期の係活動を振り返らせて、係を再編成したり、仕事内容を改善させたりする。	・新たな係のページを作る。
6	・学級のルールを見直す。(後期)	・6か月を経て、守ることが難しいルールやあまり意味のないルールはなかったか話し合い、内容を更新する。	・ページのロックを解除する。